

震災に係る奥能登地域の取組について

震災に係る奥能登地域の取組について (ふるさと教育・創造的復興教育推進事業、遠隔授業モデル事業)



- ふるさと教育を更に推進し、ふるさとの価値の再認識と復興を担う人材の育成につなげるため、**「創造的復興」をテーマとした活動を全県立高校で実施**

R6まで



④ 創造的復興をテーマとした取組 (R7～)

● 地域の教育資源を活かした ふるさと教育の推進

- 地域の自然や歴史、文化等への理解を深めて課題を発見し、その解決方法を探るなど生徒が主体的に学ぶ



輪島塗体験 (輪島高校)



養蚕プロジェクト (津幡高校)

◎ 復興探究コーディネーターの配置 (奥能登 5 校)

- 高校と地域をつなぐコーディネーターを 2 名配置
- 奥能登 5 校での探究ネットワークを形成



◎ 能登でのフィールドワークを通じた防災教育 (奥能登地域以外の全日制県立高校 3 3 校)

- 奥能登以外の高校生が、震災遺構の見学や震災の語り部から話を聞くなど、防災・減災について学習

- 生徒の学習機会の充実に向け、**奥能登地域の高校をモデル校とした遠隔授業を実施**

- 学校間の授業配信を行い、遠隔授業の課題の洗い出しやその効果を検証

復興探究コーディネーターの配置

- 奥能登の県立高校5校に、7月から民間のノウハウを有する復興探究コーディネーター2名を配置（NPO法人カタリバより派遣）
- 復興に向けた課題解決に取り組むための探究活動を進め、復興を担う人材を育成

主な役割

- ①地域の教育資源を生かした学習活動の支援
- ②県内外の高校生との交流活動などの支援
- ③各学校と市町等との連携体制の構築



各学校の特色や強みに、一層磨きをかける

取組内容

- 5校を定期的に巡回し、各学校の探究活動における現状と課題の把握
- 各市町や地域の関係団体に対し、学校との連携に向けた要望の聞き取り
- 5校の教員を対象とした探究活動の合同研修会の実施（8月末）



能登でのフィールドワークを通じた防災教育

- 奥能登以外の全日制県立高校33校の生徒約2,000人が、能登を訪れ、震災遺構の見学や専門家・語り部から話を聞くなどして、**防災・減災について学習**
- 8月下旬までに14校の約600人が参加**
→ 羽咋工業、小松工業、津幡、宝達、小松、金沢西、金沢桜丘、志賀、羽咋、金沢泉丘、小松商業、工業、金沢北陵、鹿西
- 事前・事後学習も実施し、現地での学びを深化させ、ふるさとの価値の再認識につなげる

訪問先の例



福浦港



黒島漁港



出張輪島朝市



道の駅とぎ海街道・富来復興商店街



總持寺祖院

専門家・語り部による説明

- 地質学の専門家がバスに同乗**、地震発生のメカニズムを説明
- 訪問先では、**地元の語り部が高校生を案内**



バス内での地質学講義

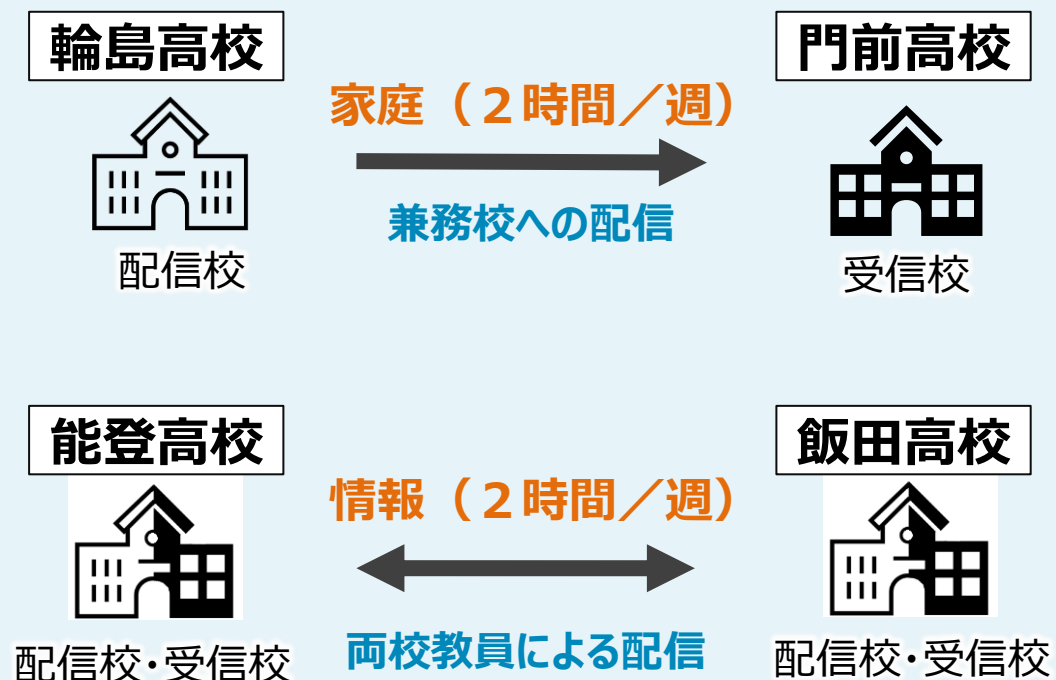


珠州市観光交流課 3 -

遠隔授業モデル事業

- 奥能登の高校は、地域唯一の高校として、多様な進路希望に応じた教育が必要
- 一方で、過疎化や地震などの影響による入学者の減少に伴い、各学校が行う全ての科目に教員を配置することが難しい状況になりつつある

教員が不足する科目での学校間の授業配信（遠隔授業）を2科目で試行



【現状】

- 7月31日に遠隔授業に係る機材の受注者が決定
- 8月末までに機材が各学校に設置
- 2学期より遠隔授業開始（各教科15回程度実施）
- 授業者や受信側に配置される職員が留意すべき点等、課題の洗い出しを行う

【参考】

- 配信センターを設置している北海道及び大分県の遠隔授業をオンラインで視聴（県教委及び遠隔授業実施校教諭等）
→ 6月:北海道（情報、家庭） 7月:大分県（数学、英語）